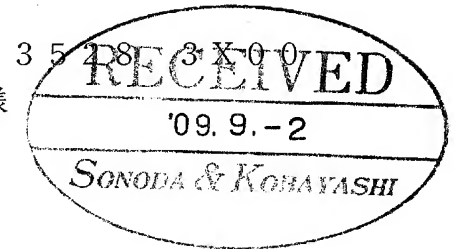


拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 4 - 0 4 7 0 8 5
起案日	平成 2 1 年 8 月 7 日
特許庁審査官	宮崎 光治
特許出願人代理人	園田 吉隆 (外 1 名) 様
適用条文	第 2 9 条第 2 項



この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものです。これについて意見がありましたら、この通知書の発送の日から 3 か月以内に意見書を提出してください。

理 由

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

- ・ 請求項 1 - 6
- ・ 引用文献等 1、2
- ・ 備考

引用文献 1 には、ガラス基板補強用の溝 9 6 を有し、蛍光体塗膜 6 6 を形成したガラス基板 7 0 とガラス基板 9 2 とで、ランプ封体 (平面蛍光ランプ) を構成する点が記載されている (段落【0 0 3 4】、図 9、図 1 1 等参照)。

引用文献 2 には、特に第 7 図の記載を参酌すると、平面蛍光ランプにおいて、点灯装置 A C より複数組の電極に交流電圧を加えてランプを点灯させる構成が記載されている。

また、交流電圧を加える電極の組を一組おきとして、交流電圧を加える電極の組と加えない電極の組とを、点灯のちらつきを発生させない周波数 (4 0 H z 以上) で順次切り替えるようにする時分割点灯方式が記載されている。

そして、引用文献 1 に記載された発明と引用文献 2 に記載された発明は、いずれも平面蛍光ランプの技術分野に属するものである。したがって、引用文献 1 に記載された発明に、引用文献 2 に記載された点灯方式を適用することは当業者が容易に想到し得たことである。

また、ランプ点灯のちらつきを防止するために、前記周波数を 100 Hz 以上にすることは、当業者が適宜選択し得る事項にすぎない。

また、時分割点灯方式において、一組おきに点灯させる構成に代えて、二組おきに点灯させることは、隣り合う電極間距離等に応じて、当業者が適宜選択し得る事項にすぎない。

したがって、本願の請求項 1－6 に係る発明は、引用文献 1 及び 2 に記載された発明に基いて、当業者が容易に想到し得たものである。

引用文献等一覽

- 1.特開2002-190276号公報
2.実願昭56-077725号(実開昭57-190698号)のマイクロフィルム

先行技術文献調査結果の記録

- ・調査した分野 I P C H 0 1 J 6 1 / 3 0 - 6 1 / 4 8
 H 0 5 B 4 1 / 1 4 - 4 3 / 0 2
- ・先行技術文献 特に記載する文献なし

この拒絶理由通知の内容に関するお問い合わせがございましたら下記までご連絡下さい。

特許審査第二部 生活機器 照明 宮崎光治

TEL. 03 (3581) 1101 内線3372